

「ふくしまハイドロサプライ」設置

移動式水素ステーション

浪江の棚塩産業団地に

アポロガスのグループ会社「ふくしまハイドロサプライ」（本社・福島市）が浪江町に計画していた移動式水素ステーションは「水素ステーション ナミエナジー」として、町内の棚塩産業団地に設置される。五月中旬の開所と営業開始を予定している。相双地方では初の商用水素ステーションとなる。十五日、現地で地鎮祭が行われた。

移動式水素ステーションは、トラックに設置している充填（じゅうてん）装置で、燃料電池車（FCV）に水素を供給する。ふくしまハイドロサプライは浪江町を事業拠点として、「福島水

安全を祈願してくわ入れずる相良社長



素エネルギー研究フィールド（FH2R）」で製造される水素を活用する。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の被災地でFCVを普及拡大し、脱炭素化を促進していく。

相良元章社長は「FH2Rでつくられる再生エネルギーの水素を使い、脱炭素化を進める。震災と原発事故の被災地の復興に貢献していきたい」と語った。同社は町水素エネルギー普及拡大事業補助金を活用している。

浪江町では、ふくしまハイドロサプライによる移動式水素ステーションとは別に、クレ

ーンリース業の「伊達重機（本社・浪江町）」が、自動車会社やインフラ事業者などで行く「日本水素ステーションネットワーク合同会社（本社・東京都）」と共同で、町内川添に定置式の水素ステーションを整備する計画が進んでいる。